

いよいよ創刊！

『民俗村の情報紙』ペンギン

先日創刊準備号として見切り発車しました『民俗村かわら版』でしたが、いよいよ創刊号の発行と相成りました。月1回程度の発行予定とは違ったものの、自然あふれる民俗村内だけに季節によつて拾いきれない豊富な情報量でもありまして、果たして皆様に満足いただけるものかと今から不安であります。お客様の声なども随時掲載していきたいと考えまおりますので、率直な感想などもどしどしお寄せ下さい。例えばこんなことが知りたいとか、こんな催しがあったら参加するのにか……。できれば発行者を「やる気」にさせる魔法の呪文であればうれしいのですが……）
こんな感じでお届けしてまいりますのでどうぞお付き合いをよろしくお願ひします。

自然観察会開催

今年3回目となる「自然観察会」を開催します。期日は8月27日（木）午前10時から正午頃まで。参加費はお弁当、傷害保険料込みで一人千円です。園内を中心に付近のハイキングコースを廻ります。講師は自然観察指導員・環境教育インストラクターの鈴木清明さんです。鈴木さんは栗駒国定公園焼石岳で自然公園保護管理員をされており、高山植物に造詣が深い方ですが、民俗村内の植生観察調査をお願いしたこともあつて、今では国見山をはじめ民俗村周辺に足繁く通つていただき、焼石岳をはじめとした高山植物と比較しながらいろいろと調べまくってまいります。日本野鳥の会会員でもあります。



バードカービングの講師などもさ
れまあり、植物はおろか野鳥や昆
虫などにも詳しいので、一緒に歩
きながら登山の話や動植物の話な
ど優しく詳しくお話しいただけま
すので、どうぞ一度ご参加くださ
い。なお、歩きながらの説明のた
め、定員15名で開催しております
のでお申し込みはお早めに。参
加申込は民俗村管理事務所まで。
お弁当付きですの観察会終了
後、講師を囲んでお食事をしなが
ら皆さんで食べべまいたいただきま
す。
園内植物の詳しい解説は、後々鈴
木さんに書いて
まもらうこと
にします
のでお楽しみ
に！
なお、観察会は
毎月第4木曜
日に予定しま
います。



旧暦『七夕』の開催

準備号でもお知らせしましたが8月25日は「旧暦七夕」でございます。「旧暦」とは何ぞやと申しますと、月の満ち欠けを基準に太陽の動きも加味された「太陰太陽暦」と言われるもので、陰暦、太陰暦とも呼ばれていました。大きな違いは一か月の日数。月の満ち欠けを基準にした旧暦では新月から新月まで（月が見えない日から三日月、半月、満月を過ぎてもまた見えなくなるまで）の周期は大体29.5日くらい。現在の太陽を基準にした新暦では30ないし31日に比べ一年にすると誤差が生じるためその誤差が大きくなる時に「閏月（うるうつき）」を入れて調整されました。



季節ごとに行われていた年中行事などは、この旧暦に基づいて行われていたため、新暦とはズレが生じているのです。一度講演にいらした旧暦を研究されている千葉

望先生いわく。季節を表すことなどは旧暦のほうがしっくりくることが多いと。3月3日のひなまつりは桃の節句と呼ばれますが今の季節では桃の花は咲いていません。今年旧暦だと3月26日で暖かくなつてくる頃ですね。特に「七夕」が顕著に現れるのだとか。新暦であればちょうど梅雨時であり、また、晴れまも月の輝く夜にぶつかることもあつて遠距離恋愛の織姫彦星のロマンスも数年に一度である。旧暦だと梅雨も明け、初秋の涼風の吹く夜に二つの星もクッキリと眺められるのだとか。本来はこういった季節に行われていたのが七夕なのです。と力説されました。
民俗村では園内に七夕飾りを行います。星に願いをではありませんが、皆様の短冊をササ飾りに思いを結び付けください。もちろん短冊はこちらで準備しております。受付でもらってくださいね！

旧今野家工事終了

続いて国重文旧菅野家へ

6月から屋根の葺き替え工事に入っていた旧今野家の工事が終了しました。来園者を一番最初に迎え入れる施設でしたが、工事前は警備棟側の屋根は崩れ、雨漏りのせいで土壁がボロボロ、通路側の葺き替えの屋根もボツボツ穴が開いていたり。修復も終わり、入口にピカピカと鎮座します受付今野家。業務も気分一新でお客様をお迎え出来ます。新しい茅葺の旧今野家を見にいらしてください。

今野家に続いては国重要文化財指定の旧菅野家住宅です。こちら正面屋根は雨漏りがひどく、土壁や梁などに染み出まいましたので見栄えが悪いですがブルーシートで覆ってまいま

左…引き渡しを待つ旧今野家住宅

下…ブルーシートで覆われた工事中の旧菅野家住宅



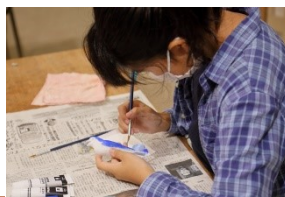
た。国重文ということもあり、工事には文化庁の許可が必要で、細部まで指導を受けながらの工事となるようです。今回は正面屋根の茅葺葺き替え。お盆前から工事が入りますので、工完了の10月半ばまで観覧出来ませんのでご理解ください。

なお、来月に茅葺葺き替え見学会を計画しますので、その際は奮ってご参加ください。葺き替え工事中の様子は中々見ることが出来ませんし、茅葺大工さんから詳しく様子を説明いただきますのでお見逃しなく。日程が決まりましたらホームページやPの他、村人の皆さんにも別途お知らせすることにします！

夏休み工作教室

8月8・9日体験工房で開催しました。バードカービングを

しらった壁掛けづくりで、自然観察会の講師も務める鈴木清明さんです。参加者は3名と少なかったのですが、オオルリとキビタキのいづれかを選び、集中して製作していました。



右上・右下…鈴木さんから手ほどきを受け製作中
下…講師鈴木さんの作品。キビタキ



出ました！特別天然記念物

8月18日昼過ぎ、民俗資料館のトイレに向かう窓の外を眺めると「ややや！国の特別天然記念物のニホンカモシカがいるではないか!!」過去にも園内を親子連れで横切ったり、作業中に突然出くわしたり。朝に民家に電気を点けま歩くとときに家の中にいたり…と私たち職員にとつてはあまり珍しくもない光景であります。が、よく考えると「あたり前」ではないこととです。ちょうど資料館にいらしたお客様にも「あそこカモシカがいます」と教えます。旧大泉家の生垣を抜け敷地内に入りましたので、思わず「お客様、入り口はそこまでございませぬ」と出かかりましたが、そっとお見送り。カモシカさんは静かに山へと帰っていきましたとさ。どんどはれ。



民俗村のスズメ(職員から)

今年の園内の蝶の状況について述べる。

まず、春の蝶だが、ヒメギフチョウは民俗村でも目撃でき。撮影したくましたくまたら



らない蝶だが、なかなかお目にかかることが出来ない上に、たまさか目撃し

ても遠かったり、近づいても逃げられたりと撮影は至難を極める。ヒメギフチョウだけでなく、春の蝶は逃げ足が早い。次にゼフィルスの話だ。樹上性のシジミチョウ類をゼフィルスと呼ぶ。民俗村でも数種類が確認できるが、なぜか今年にはミドリシジミ系を見ないでしまった。また、ミズイロオナガシジミも今年のみみない。アカシジミやウラナミアカシジミは例年より少ないが見ることができた。

そして特筆すべきは、今までも目にかかることができなかったムモンアカシジミを目撃するだけでなく、撮影までしました。8月19日の午後、羽化したマダマを乾かしていた。まったく逃げないので、枝を蝶の師匠に押さえてもらいシャッターを押した。皆さまには、ちょっとおもしろい写真展に足を運ば、その勇姿をご覧になつただけだ僕ほうれしい。(礁)

